

『宗教民俗研究』執筆要項

一、原稿の構成

論文の構成は氏名、題目、本文、本文文中に入れない史料、注、参考文献の順とします。研究ノート・調査報告・書評は論文の構成に準じます。新刊紹介については紹介書籍の著者名、著書の題目、紹介文の順とし、最後に（ ）内に出版社、出版年、ページ数、価格を記入し、括弧の欄外に紹介者名を記入してください。

二、〔原稿の様式〕

原稿は、1ページ40字×30行とし、A4判用紙横向きに縦書きで印字してください。原則ワープロ原稿でお願いいたします。

三、盗作の防止

盗用等の問題が生じないように論文、研究ノート、調査報告を問わず、執筆者の見解と引用文献の内容とがはっきり区別できるように、表現上および表記上の配慮をしてください。

四、表記

文章は現代仮名遣い、常用漢字の使用を基本とします。史料および固有名詞はこの限りではありません。人名には、敬語、敬称は用いないこととします。

○数字は原則として漢数字を用い、万の位以上は単位語を入れます。

例 一〇万九三〇〇円

○わたりのある数字は次のように記し、数字の省略はしません。

例 八五〇～八六〇個

○分数、百分率、小数点は次のように記します。

例 三分の一 二六・五パーセント

○年号は西暦を用いることを原則とします。ただし、元号は必要に応じて使用できます。

年・月日・時間・年齢は次のように記します。

例 一九七〇年 万延元（一八六〇）年 二月二十八日
十一時二十分 三十五歳

五、引用

引用は「 」によって示すこととします。ただし、引用文が長文におよぶ場合には、本文前後を1行空け二字分下げて記述してください。引用の最後に〔 〕をつけ、著者の姓、出版年（西暦に限る）、ページ数を以下の例にならって記入します。

史料等の引用についてもこれに準じます。個人所有の史料の場合引用文の最後に〔 〕をつけ、著者の名前、史料名を記入します。

史料の全文を本文中にそのまま掲載する場合、引用文の最後に〔 〕をつけ、著者の姓（名前）、収録年、収録雑誌（単行本）のページ数を次の例にならって記入します。

例 五来 重は「……」と述べている〔五来 一九八二 一〇〇〕。

引用が抄録の場合は次のように記します。

例 井之口章次は、……と述べている〔井之口 一九七五 一七～三四〕。

○引用を明示する際に、注釈を用いないようにしてください。

六、注の書き方

注は本文の最後に記載してください。注の番号はアラビア数字を用い、() に囲んでください。本文中に記載する注の番号は必ず句読点の前に置き、原稿には次のように記してください。

例 柳田國男の考えによれば(1)、……

注の書式は次のように記します。

例《注》

(1) □□□□□□□□……
□□□□。

○ Wordなどの脚注および文末脚注機能を使用した注釈の作成については、厳禁とします。注釈についてはべた打ちでお願いいたします。

七、参考文献

引用および参照した文献はすべて原稿の最後にまとめてください。文献の副題については前後にダッシュ(—)をつけ、リストの配列は、日本語文献・欧文文献の順に、日本語文献の場合は著者の氏名の五十音順、欧文文献はアルファベット順に配列してください。各資料は以下の要領で表記をしてください。日本語文献については句点で記載事項を区切り、読点を末尾につけてください。欧文文献の場合カンマで記載事項を区切り、ピリオドを末尾につけてください。

単行本・・・著者、出版年、書名、出版社の順とし、書名は『 』で囲んでください。

論文・・・著者、出版年、論文名、収録雑誌(単行本)名、巻号、出版社の順とし、論文名は「 」で囲み、雑誌(単行本)名は『 』で囲んでください。

史料・・・著者、史料名、最後に()内に校訂者(編者)、出版年、収録雑誌(単行本)名、出版社の順とし、論文名は「 」で囲み、雑誌(単行本)名は『 』で囲んでください。個人所有の史料の場合は、著者、史料名、所有者名の順とし、史料名は「 」で囲んでください。

例(単行本の場合)

井之口章次、一九七五『日本の俗信』弘文堂。

例(論文の場合)

磯前順一、二〇一五「天皇制国家と余白」『宗教研究』第八九卷第二輯、日本宗教学会。

本林靖久、二〇二二「能登の真宗民俗と女性一嫁のコンゴウ参りを中心に一」由谷裕哉編『能登の宗教・民俗の生成』桂書房。

例(翻訳書の場合)

デネット、ダニエル・C・、二〇一〇『解明される宗教—進化論的アプローチ』阿部文彦訳、御茶の水書房。

例(史料の場合)

長島泰行「富士山真景之圖」(岡田博校訂、一九八五年『江戸時代参詣絵巻 富士山真景之図』名著出版)。

欧文の参考文献の場合・・・上記に準じますが、書き方は次の例にならってください。出版年に関してはアラビア数字で記入してください。書名・論文名に副題があればコロン(:)を付し、書名および雑誌名はイタリック体で表記してください。翻訳がある場合には、出版年の後に〔 〕に翻訳の出版年を記し、最後に()内に翻訳題名、翻訳者、出版社を記してください。

例(単行本の場合)

Levi-Strauss, Claude, 1962 [1976], *La Pensée sauvage*, Librairie Plon, Paris. (『野生の思考』大橋保夫、みすず書房)

例（論文の場合）

Schulzer,Rainer, 2024, *Religion as Political Postulate in the Writings of the Modern Buddhist Philosopher Inoue Enryō*, en : The Eastern Buddhist. Third series,The Eastern Buddhist Society.

オンライン文献の場合・・・ウェブサイト制作者名、引用箇所のタイトル、URL、（参照年月日）また、本文中の所定箇所に、以下のように括弧書きを入れ、参考文献に入れます。

（ウェブサイト制作者名、online：ファイル名）

オンライン文献の引用については著作権、肖像権などについて十分ご注意ください。

例

日本民俗学会－『日本民俗学』とは

<http://www.fsjnet.jp/periodical/periodical.html>（2015.7.11）

として、文中には（日本民俗学会、online: periodical.html）とします。

八、図・表

図・表および写真は必要最小限に止めてください。図版の数が5枚を越える場合、投稿規定にあるように実費を負担していただきます。実費の価格については事務局メール宛にお問い合わせください。

図・写真・・・1枚ごとにJPEGファイルで送付ください。ファイル名は（通し番号：タイトル）をお願いいたします。

表・・・1枚ごとに作成してください。ファイル名は図・写真と同様の形式をお願いいたします。

図・写真・表ごとに通し番号をつけ、それぞれにタイトル、説明並びに出典等をつけ、本文原稿の当該箇所に挿入箇所を明記してください。本文中に入れていただき、その下に説明など記載していただいても構いませんが、別紙に通し番号とその図・表・写真の説明をまとめていただけるとより良いです。

○図版はカラーで作成していただいても構いませんが、モノクロまたはグレースケールで印刷されることを承知ください。

図・表・写真のタイトル・説明はそれらの下に挿入されます。